

リフレクションカード 2015年度前期

学科	保育
氏名	東彩子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
キリスト教学Ⅰ	1	前期	必修	いいえ	75

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○		○	

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	この講義は、必須科目として「感恩奉仕の土台」を身につけることが目的なので、授業ではキリスト教の基礎を体験的に習得できるよう、祈りや自ら聖書を読むこと、紙芝居や絵本の読み聞かせなどを取り入れた。また、授業以外のチャペルの参加や、教会訪問なども評価に取り入れ、授業外でキリスト教に触れる体験の機会を設けた。 昨年度からの改善としては、毎回の授業中、ポートフォリオでの学びの確認だけでなく、Bible Note作成を導入し、出席率でしか評価できなかったチャペルでの体験的な学びが、毎回のチャペルのコメントをノートに張りつけ、見直すことができるようになった。また、このBible Noteには、授業外で聖書を読んだ時のコメントなども記入できるようにし、予習・復習に取り組みやすい工夫をした。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	やや達成された		達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業評価アンケートの結果より、知識理解に関しては4.1ポイントであった。トータルの成績の平均値は約80%以上。チャペルの出席率約80%以上とコメントカードの内容、教会訪問の出席率約90%以上と感想文の内容から、感恩奉仕の価値観を学び、聖書の視点を知り、キリスト教の源泉に触れるという、教育目標はやや達成されたと言える。キリスト教学Ⅰはキリスト教の導入なので、今後、キリスト教学Ⅱの中で、Ⅰで学んだ知識をもとに、発展させていくような展開が必要とされる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は本学の要となるキリスト教を学ぶ「必修」科目である。しかし、初めから興味を持って受講する学生はわずかである。キリスト教に全く興味のない学生も受講しているため、動機付けに工夫が必要であるが、全体的に一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考ええる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 感恩奉仕の価値観を学び、聖書の視点を知り、キリスト教の源泉に触れるという、行動目標に沿い、学問としての聖書の講義とアクティブラーニングの学びの他、チャペル出席、教会出席、等を行い、授業内で学ぶ事の出来ないキリスト教の源泉に触れるなど、内容的には妥当であったと考ええる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	Bible Noteを今期より導入したが、未だ、使用方法の指導が徹底していなかった。キリスト教学Ⅱに引き継いで使用するものとして、キリスト教の学びの集大成として作成していきたいので、今後は授業外の予習・復習などで用いる事、チャペルのコメントカードを貼付け見直すことなどを、徹底していきたい。 本講義は、興味のない学生にも興味をもってもらうことが重要である。授業の質評価において、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の平均が4.3と高かったところを生かし、引き続き、アクティブラーニングの手法を工夫しつつ、学生たちが自ら聖書を開いて、日常生活に応用できるような仕組みを作りたい。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	必修科目の位置づけであり、本学の要となる「感恩奉仕」の土台を学ぶ科目であるが、関心や興味のない学生たちに主体的に学習してもらうために、工夫が必要である。受け身的に知識を得るだけでなく、各回ごとに必ず学生が主体となって行うディスカッションや、絵本・紙芝居の読み聞かせなどを入れ、授業を造り上げる一員としての自覚を養うように促している。毎年行っているチャペル出席や教会訪問に加え、それらの学びをひとつのノートに記録できるよう、Bible Noteを作成したのが今年の特徴であり、これについては、更に使用方法を工夫し、新たな予習・復習のツールとしても取り入れて行きたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	保育
氏名	戸田由美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
文学 I	1	前期	選択	はい	68

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○				

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	人数はますます多いほうだが、それゆえに学生の受け止め方が千差万別である。したがって、学生自身が将来目指す保育士像というシミュレーションに沿って、それと重ねて文学的考察をすることに重きをおいた。つまり、文学というものが『「ことと言葉」に端を発していることを念入りに解説しながら、作品のなかにあらわれる人生観、社会観、職業観といった方向に講義し、引いては「生きてゆくことの意義」と「表現すること」の重要性を説くことに努めた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	全体を通しての評価としてはいつもとあまり変わらないが、73%程度である。意欲を示して毎回の講義を楽しみにする学生と直ぐしゃべり始める学生との(少人数ではあるが)温度差をどの様に対処してゆくのか、といった課題点がある。講義中の提出物に対する反応は大体80%答えているが、自ら図書館に行つて予習をするわけではないようだ。このあたりがアンバランスな点でもあり、一般教育科目としての捉え方の特徴が出ているのかも知れない。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、選択科目であり、また一般教育科目でもあるので、専門科目との連関性が心配であったが、そのあたりのことは学生もしっかり把握しているようであったので、内容的には妥当性があると考え。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 予習復習の点に於いて、「する必要がない」というとらえ方もあったようであるが、講義の回数を重ねるうちに考え方が少しずつこの科目に慣れて、理解力が徐々に増しているようであったので、内容的には妥当性があると考えられる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	学生たちがもっと読書欲をおこすような講義体制になるように改善してゆきたい。そのためには、読書指導のマンツーマンの講義を考えている。「面白く楽しい感覚を 味わう」学問の在り方を考えてみたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	今のところ、講義内容についてはそれなりに理解しているようであるが、世の中の若者たちも少しずつ、われわれとは温度差があり、認識の在り方やそのプロセスを 考え直さなければ、いけない時代が来ているように感じる。
-------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	保育
氏名	戸田由美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
文学Ⅱ	2	前期	選択	はい	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○				

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	文芸学の諸問題について考察し、それが具体的に文芸作品とどの様に関わってゆくのか、それを日本人の心の中に伝統的に育成されたルーツを探ることを目的にして講義を進めた。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	達成された	達成された		やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	受講生自ら、テーマを決めてこの講義と向かい合ったので、かなりのところまで関心を持って追求できたようである。したがって80%の達成度はあったようである。プロセスとしては困難もあったようであるが、結果としてはなかなか良い状態であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 選択科目であり、一般教育でもあるが、学生自身の関心分野と文芸的接点を見出して、一人ひとりテーマを見つけて取り組んでいるので、内容的に妥当性があると考えられる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 自身の考えをまとめるためにかなりの努力がみられたことは確かであるので、内容的に妥当性があると考えられる。 自
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	昨年から現在の方法に改善しているので、今しばらく続けてみたいと思っている。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	受講人数の少ない科目ではあったが、学生の関心と講義の方法がマッチしていたので、来年もこの体制で講義を進めてゆきたいと考えている。願わくば、もう少し、活字に対して敏感になってほしいところである。
------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	保育
氏名	小池順一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
法学	2	前期	選択	はい	2

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	当該科目は、一般教養に該当する科目であり、専門性は有しないため、学生の事前の知識はほとんど無かった。しかし、受講動機として興味があるからとしていることから、学習意欲は高いと思われた。そこで、日常生活において、生じる様々な具体的な事例を基に法律的な観点からの説明をした。できるだけ、分かりやすい例を用いたが、自由記述欄における回答を見ても、所期の目的は達成できたといえる。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の到達度自己評価をみると、自分なりに目標を達成できたかについては、3、5、知識を新たに得ることができたかについては、4、5という評価であった。課題レポートを見ると、全体的によい成績であったので、学生が自己評価している以上の目標は達成できたように思う。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は選択科目であり、特に内容に関心のあった学生が受講していた。そのため、受講態度は良好であった。単に法律についての知識を得るだけでなく、論理的に考える力も学習できた。レポートをみても、各学生がよく課題について、論理的に自分の考えを述べていたので、教養的な科目としては妥当であったと考える。以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	日常生活において、学生が将来、遭遇するであろう事例を用いたので、学生の興味を引き付けることができた点は良かった。本来であれば、予習を充実させてほしいところであるが、法律的な専門用語が多いため、学生の自主的な予習活動は困難であると思われる。そこで、予習をしなくても授業が理解できるよう、授業において、専門用語の解説、法律的問題点について、丁寧に解説した。今後の課題としては、復習の充実と授業を受けて更なる問題について、図書館等で自学自習できるような方法を教えたい。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	少人数の授業であったので、学生にしばしば質問をし、また学生からの疑問についても答え、双方向の授業ができたと思う。今後の課題としては、学生が自分で更に学習するための図書館やインターネットの利用方法などの方法論についても解説していきたい。
-------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	保育
氏名	領木 信雄

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
コンピュータ・サイエンスⅠ	1	前期	選択	いいえ	75

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	×	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	1年生前期の科目であり、数少ない情報系科目のひとつである。操作の説明をする際に、園便りや名簿など保育の現場で作成するものを題材として扱った。操作に不慣れな学生が多いので、作成したものを毎回提出させ、正しくできているか確認して返却した。毎回シートを配布して質問やコメントを回収し、授業が一方向的にならないようにした。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された					達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は90点、再試験となったのは0名であった。パソコンの操作について身につけているかどうかを問う2種類の試験を行ったが、多くの学生がほぼ間違えずに出来ており、平均点は高めの値となった。 学生による到達度自己評価においては、「自分が学ぼうとしている専門分野」に関連し田項目で「少しそうではないと思う」以下を選択した学生が1～7名ほど見られたが、「自分なりの目標を達成した」「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」ではほぼ全ての学生が「まあまあそうだと思う」以上を選択しており、達成状況は良好であると言える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	1. CP・カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は一般教育科目の選択科目である。身につけるべき「短期大学士としての教養」を扱う科目として、カリキュラムツリーにおいて「基礎」の段階を担当する科目として、また、幼稚園教諭二種免許を取得するために必要な科目として、内容的に妥当であると考ええる。 2. DP・行動目標からみでの内容的妥当性 DP5「技能・表現」の「保育に必要な基礎技能を身に付けている」について内容的に妥当であると考ええる。 3. まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の平均値が 3.2 であった。身につけるべき技能が多いので授業内でこれに応えるのは難しいと思われる。 また、復習を行なっている学生が多くないことが分かった。復習すべきポイントを分かりやすく伝えるよう工夫したい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	課題の提出状況もよく、試験の平均点も高く、達成状況は概ね良好であると言える。操作は得意な学生と苦手な学生とで差が出やすいので、復習のための課題などで調整していきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	保育
氏名	領木 信雄

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
コンピュータ・サイエンス II	2	前期	選択	いいえ	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	操作の説明をする際に、保育の現場での使用例を説明した。 操作に不慣れな学生が多いので、授業中に作業時間を長く確保し、作業しながら遭遇する疑問点をその場でひとつずつ解決できるようにした。 毎回シートを配布して質問やコメントを回収し、授業が一方向的にならないようにした。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された					達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は85点、再試験となったのは0名であった。大きな2つの課題で評価を行った。いずれも提示した条件を全て満たした課題を提出する学生がほとんどで、平均点は高めの値となった。 学生による到達度自己評価においては多くの項目で学生が「まあまあそうだと思う」以上を選択しており達成状況は良好であると言える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	1. CP・カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は一般教育科目の選択科目である。身につけるべき「短期大学士としての教養」を扱う科目として、カリキュラムツリーにおいて「基礎」の段階を担当する科目として、また、幼稚園教諭二種免許を取得するために必要な科目として、内容的に妥当であるとする。 2. DP・行動目標からみでの内容的妥当性 DP5「技能・表現」の「保育に必要な基礎技能を身に付けている」について内容的に妥当であるとする。 3. まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の平均値が 3.2 であった。 課題の自由度が高いので、それについて話し合い・発表などの機会を設けるようにしたい。 授業の質評価において「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の平均値が3.2 であった。毎回シートを配布し授 業へのコメントや疑問点を書いて提出してもらっているの、それをより活用してもらいたい。 また、復習を行なっている学生が多くないことが分かった。復習すべきポイントを分かりやすく伝えるよう工夫したい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	課題は全員が提出し、多くの学生が問題なく仕上げていたが、課題の自由度が高いことから、課題の内容について戸惑う学生も見られたので、具体例を多く示して イメージをつかみやすくなるよう、また、制作したものに関して話し合いや発表の機会を設けていくようにしたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	保育
氏名	金銀英

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ハンゲル I	全学年	前期	選択	はい	37

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	○第二外国語として初級レベルの韓国語力をつけることを目標としている。開講後に行ったアンケートで(学校で実施する授業評価ではなく、別個に実施)「英語以外の言語に触れてみたい」や、「韓国旅行の際便利そう」などの積極性が見られる受講動機がある中「単位が欲しいから」との返答もなるなど、学生間の温度差があることが分かった。 ○受講姿勢に差がある60に近い受講生全員が興味と持つように“楽しい”授業を目指した。学生が興味を持ちそうな韓国事情や毎年好評のK-popなどを授業に取り入れ最後の授業まで韓国語への興味が持続するように勤めた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された					達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	登録のみで授業に出なかった1名を除いた57名の成績平均は83.160で理想的レベルに達することができ、再試対象者もいなかった。 授業評価における到達度自己評価でも全設問満足度が高いという嬉しい結果となった。中でも「知識を新たに得ることができた」や「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の設問に特に高い満足度が見られ、講義が重点を置いている点と学生の満足とが一致する結果が得られた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CP, カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容的妥当性 試験の結果で見られるように第二外国語として、目標としていた成果を挙げられたので内容的に妥当性があると考えられる。 DP 授業中、学生達から受けた印象もさることながら、到達度自己評価でも高い評価を得ているので妥当性があると考えられる。 まとめ 以上のことから内容的妥当性には問題ないと思われる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	初級という授業の特徴上、学生間やり取りが難しいが、なんとか授業に取り入れる方法を考えたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	第二外国語として学習歴のない学生を対象に、基本となる話す・聞く・書く・読む力をつけることが目標だった。その目標を達成できたことにより次の「ハングルⅡ」に進むに不足しない実力がついたと思われる。そして授業評価の自由記述に「上級クラスがあれば進みたい」との意見があったことがこのクラスの成果の表れと言えよう。来年度も引き続きよい成果を挙げられるようにがんばりたい。
------------------------------	---

学科	保育
氏名	戸田 由美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
日本語表現法	2	前期	選択	はい	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	昨今、活字離れの現状を指摘されるが、学生の苦手意識を払拭するために、表現することの意義をわかりやすい事例をもとに説明することに力をいれた。日常の生活意識の中にある表現をモチーフとして、話し方、文章の作り方等、その組み立て方の根本的基礎的奥義を解説した。ただ単に私の講義を聞くだけではなく、その都度、簡単な問題を通して、学生自身の実力を測りながら講義に臨めるように配慮した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成されなかった		やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	この科目について、教員から要求されたこと以外に自分が調べる、或いは学習予習するといった学生は半分以上いないようである。何が重要であるかはよく理解できているが、それを活用する意欲や工夫、関心といったものは浅く、試験に出そうだから頑張るという傾向が強いようであった。したがって、課題を出すより、その講義中、徹底的に集中できるような方法を取るべく講義することに力を注いだ積みである。技能表現に関しては、65%から70%である。もう少し意欲を出せば、おのずと成果も期待できるかと考えるところである。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容妥当性 科目は選択科目である。受講動機を見る限りでは、少なくとも関心はあったようであるが、学習方法がわからない学生もいるという事が判明したので、それなりの対応を工夫した。そのために内容を修正しているので、内容的には妥当であったと考える。 DP、行動目標から見ての内容妥当性 継続評価から技能表現に関する達成度がやや低かったが、時間をかけて学ぶ方法の修正をしているので、内容的には妥当であったと考える。 本 ② 成
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	今まで通りの方法に加えて、示す事例をさらに増やしながら解説してゆきたい。今以上にマンツーマンの指導も続けてゆきたいと思う。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	達成状況からくる総括的評価は70点という所である。受講した学生すべてが満足理解できるよう、質問コーナー通信を徹底させたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	保育
氏名	脇 信明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
保育者論	1	前期	必修	いいえ	75

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	授業の実施にあたり、大切にしていることは、「授業のわかりやすさ」である。当科目は、保育者としての基礎的かつ中心的科目としての位置づけなため、これから保育を学ぶ学生にとって難解なものであったり、また学習の内容が学生自身の意識や理解とかけ離れないような留意をしている。具体的には、できるだけ多くの事例を挙げることで、また学生自身の経験と照らし合わせて想起しやすいような話を織り交ぜつつ授業を行うことである。 また、全ての授業をスライドショーで行うことで、より大切な事柄を理解しやすいような表現方法で提示することが可能となるからである。また、具体的なイメージを持つことができるように写真や図を多用することも心がけるようにしている。それ以外にも授業の中間でこれまでのまとめテストを行うようにしており、学生も前半後半で授業のポイントを復習しやすいような仕組みを用意している。 1 年次前期の科目のため、学習準備生については、多様な高校からの進学者がいるため、多様な学習歴(学習する姿勢を備えた者、そうでない者)がいることを踏まえ、できるだけ理解しやすい言葉や語句の説明なども、より他学年で実施する科目よりも丁寧に行うよう配慮した。 そのためか、自由記述においても、「わかりやすい授業である」や「保育者としての大切な事柄が理解できた」などの肯定的な記入が見られている。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された					
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	根拠としては、成績の状況を見ると、全受講者数のうち、再試者が1名のみであった。つまり98.7%の学生が単位を取得している状況からも、学生は授業の内容を理解できているということがわかる。これも、3で挙げた「中間まとめ小テスト」の効果もあると考えられる。 成績の分布については、S:13% A:36% B:36% C:13%という状況である。授業の評価としては妥当な評価であると言えるのではないだろうか。 授業評価をみても、科目が対応しているDPについての自己評価項目のポイントは4.2や4.1など悪くはないデータが出ていると考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DP、CP、カリキュラムマップの位置づけから見ても、現在の内容には妥当性があるといえる。 当科目に割り当てられているDPである、知識理解(専門の学問知識の習得)や態度(責任と倫理の自覚と行動の力)についての自己評価は4(2)でも示したとおり、それぞれ4.2、4.1という数値として表れている。学生自身もDP達成がほぼできていると思っていることが伺える。 自由記述の意見でも、保育者としての基礎的な知識や専門職としてのあり方(態度や責任といった姿勢)について学ぶことができた旨の記載もあり、位置づけとしては今後もこのままでよいと考える。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	ここ2年ほど、スライドショーを多用した授業を行い、より学生に視覚的に理解しやすい表現方法の工夫などを行ってきており、一定の効果があると感じている。 今後は、多様な学習方法も取り入れていく必要があると感じる。たとえば反転授業やOSTなどの方法である。より学生が主体的に学んだと思えるような授業展開のあり方を今後も模索していきたい。 また、課題の提示についても、より図書館やインターネットを活用できるようなものを利用すべきであろう。今回の授業評価においても、それらを活用したという者の割合が極めて低かったからである。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	達成状況の総括的評価としては、現状のレベルを落とさないような工夫が必要である。 課題としては、現在求められている保育者としてのあり方を保育現場から学び取る姿勢が求められると共に、かわりゆく学生の学習動機や学習準備状況、学習への意識などに対応できるような授業のあり方や方法をより模索していく必要があると考えられる。
------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	
氏名	脇 信明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
保育原理	2	前期	必修	いいえ	97

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	この科目は、保育の意義をはじめ、保育に関連する諸課題（少子化・核家族化・情報化・都市化）と子どもの成長との関わりや、保育ありよう、そして保育制度の現状と課題の理解という内容が含まれている。広範囲にわたった学習内容であり、かつ保育者として理解しておくべき事項も多い。そこで、ポイントをしぼりつつも、明確に学生に理解を促すために、スライドショーを多様な授業を行い、大切なキーワードなどを明確に伝え理解してもらうということを重点に置いている。 学習の準備性については、1年次の終わりに保育所実習Ⅰが終わったばかりであり、保育現場の様子や役割を体験的に理解しはじめている時期であると考えられる。また、長期の実習で子ども達との密接な関わりも生まれてきており、より「保育のあり方」や「保育者の役割」ということを体験を伴って考える時期であるとも考えられる。他方で、前期の後半では「就職」も考える必要に迫られる時期である。よって、保育現場の理解が深まるように、学生自身の保育経験や意識と照らし合わせながら、授業内で学生に発言をしてもらう機会を多く設定し、考えつつ理解を深めることを大切にしている。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された					
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の成績分布をみると、S:25% A:38% B:21% C:15% D:2% という結果となった。D判定の2%の学生については退学予定者であるため、実質100%の学生が単位を取得している状況である。また評価の平均点は80.8点であり、多くの学生が学習に真摯に取り組んでいる様子が伺える。また、学生による到達度自己評価においても、平均値・中央値とも4.0前後であり、おおむね達成できているということであった。よって目標は達成されたと判断できる。 ただ、評価の充足率(評価方法における配点に対し学生の獲得点の平均がどれだけなのかという割合:学生の獲得平均点／満点配点)については、筆記テストに比べ、レポートの充足率が低くなっている。(筆記テスト:83% レポート課題:58%～69%)一概に断定はできないが、学生はレポート課題について調べたりまとめたりといった活動が十分行えていないということも推察できる。それらは、図書館、インターネット利用の状況の数値を見ても明らかである。また学習量の評価についても、準備や復習などの回数が0・1がほとんどであった。それらを見ると、成績としてはよい結果を出せてはいるが、自学自習や多くの情報をあつめつつ自分なりの論拠を提示するという力量は育っていないという課題があると考えられる。今後の検討課題としたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	内容的妥当性については、今後も同様の内容で実施していくことが必要だと考える。とりわけ、本科目の中には、保育の制度についての学習が含まれており、それを詳細に行うことによって、より幼稚園と保育所そして認定こども園という複雑な保育制度の理解を深めつつ、各保育施設の役割などを理解できる機会を保障できるからである。 しかし、実施時期については検討の余地があると考えられる。可能であれば、1年の後期に開講時期を移動することで、より早期に各保育施設の理解を深め、それをもとに保育所実習Ⅰや2年次前期で行われる教育実習Ⅰでの学びや気付きにつながるのではないかと考えるからである。 (2015年度入学生より、上記のような科目配置に変更)
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	中間テストを除いたすべての授業でスライドショーを使用した授業を行い、より学生に視覚的に理解しやすい表現方法の工夫などを行ってきており、一定の効果があると感じている。 今後は、多様な学習方法も取り入れていく必要があると感じる。たとえば反転授業やOSTなどの方法である。より学生が主体的に学んだと思えるような授業展開のあり方を今後も模索していきたい。 また、課題の提示についても、より図書館やインターネットを活用できるようなものを利用すべきであろう。今回の授業評価においても、それらを活用したという者の割合が極めて低かったからである。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	達成状況を総括すると、今後もこの状況を下げない工夫が必要である。また前述したように、学生がよりレポートなど、自身で知見を高め、かつ深く検討していく姿勢を持てるような仕組み(課題の内容や方法)を検討することが今後の課題となる。
------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	保育
氏名	笠 修彰

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
児童家庭福祉	1	前期	必修	いいえ	75

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は卒業必修科目であると同時に、保育士資格取得のための必修科目であることから、全ての学生が受講している。受講対象は1年生であり、福祉系科目を学ぶこと自体が初めてという学生がほとんどである。しかしながら、本科目での学びは、保育士として必要とされる福祉的視点や援助観を涵養していくうえで、重要な科目であると考えます。 授業を進めるにあたっては、学生自身が主体的に考え取り組むことができるよう、学生が発言できる機会を多く設けたり、ディスカッションを行うなどの工夫をするともに、毎回の授業終了時にリアクションペーパーを活用し、学生の疑問や意見に対応できる取り組みを行った。またオムニバス科目であることから、授業進度や学習状況等について担当教員間で情報の共有化を図った。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な評価としてS-10名、A-51名、B-11名、C-2名、D-1名であり、S、A評価を取得した学生が全体の約81%以上であることから、目標は概ね達成されたと考えます。また再試対象者はいなかった。 方、学生による授業評価をみると、「学習達成度の自己評価」のすべての項目に対して、概ね「まあまあそうだと思う」以上の評価がなされており、意欲関心を示す項目では、全ての学生が「まあまあそうだと思う」以上の回答をしている。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、「専門科目」における「保育の本質・目的に関する科目」に位置づけられるもので、福祉系科目の基礎となる科目である。保育士資格取得のための必修科目であることを学生も理解しているため、受講に対する意欲は比較的に高い。 DPに関して、「学習達成度の自己評価」における知識理解、意欲関心を示す項目で、全て学生が「まあまあそうだと思う」以上の評価をしている。 以上のことから、内容的妥当性は問題ないと考えます。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業では、学生が主体的に考え取り組むことができるよう、可能な限り学生が発言できる機会を作っている。しかし、発言する学生に偏りがみられたため、不特定多数の学生が発言できるような雰囲気づくりに加え、クイズ形式の質問を行うなど質問方法の工夫などで改善を図りたい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	学生の取り組み状況や評価結果から、本科目の学習目標は達成できたと考える。 先の欄であげた不特定多数の学生が発言できる場の提供は、学生の主体的な学びを促すうえで、また授業を質的に高めていくうえでも重要な課題と考える。次年度へ向けて着実に改善を図っていきたい。また、カリキュラムマップ上の位置づけからも、本科目で得た学びを学生自身が他の科目と関連付けることができよう、意識的な取り組みを行っていきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	保育
氏名	笠 修彰

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
社会的養護	2	前期	選択	いいえ	97

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は保育士資格取得のための必修科目であることから、資格取得を目指す全ての学生が受講している。授業実施にあたっては、社会的養護の担い手である保育士に求められる知識の獲得を目指すとともに、適宜、具体的な事例を用いることで、現場実践に引き付けて学びを得ることができるよう心掛けた。 また、授業開始時に小テストを行い、復習に対する意欲の向上、学習状況の把握につとめた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成されなかった	やや達成されなかった		やや達成されなかった		
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な評価としてS-10名、A-26名、B-34名、C-25名、D-2名であり、97%以上が標準的レベルに達したが、S、A評価を取得したものは36名と全体の約37%にとどまった。また、再試験対象者が8名おり、成績上位者との開きが見られる。 他方、学生による授業評価をみると、「学習達成度の自己評価」では、概ね「まあまあそうだと思う」以上の評価である。しかし、いずれの項目においても1～8名の学生は「少しそうでないと思う」と評価がなされている。 以上、標準的レベルに達しなかった学生や達成度の自己評価において課題を残した点から鑑みて、目標はやや達成されなかったと考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、保育士資格取得のための必修科目であり、「保育の本質・目的に関する科目」に位置づけられている。資格取得のための必修科目であることを学生も理解しているため、受講に対する意欲は比較的に高い。 DPでは、学生による授業評価の知識理解の観点、意欲関心の観点での自己評価について、97%以上が「まあまあそうだと思う」以上の評価をしている。 以上のことから、内容的妥当性は問題ないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の質問を聞くために、授時間内に時間を設けたり、定期的にリアクションペーパーを使用するなどの対応を行ったが、個別の対応に終始してしまい、全体に対する丁寧な関わりが疎かになっていたと考える。この点を踏まえ次年度へ向けて、学生が質問しやすい雰囲気づくり、リアクションペーパーの書式の修正などにより、改善を図っていききたい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目においては、総合的にみて課題を残す結果となったと考える。今後は、今回みえてきた課題を改善すべく①学習達成度の低い学生に対する学習支援方法の検討や②学生が発言、質問をしやすい学習環境づくりに取り組んでいきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	保育
氏名	藤田 稔子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
医療保育概論	2	前期	選択	いいえ	37

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	この科目は、学生達が慣れ親しんでいる元気な子ども達を対象とする保育ではなく、病院に入院している子ども達を対象としているため、よほど医療保育に関心を持っていない限り例年受講しようと思う学生が少ない。しかし、今年度は、受講動機を見てみると76.5%の学生が「関心のある内容である」と回答しており、従来の「単位数稼ぎ」のための受講とは傾向が異なっていた。 以前は「小児保健実習」で実際に小児病棟に行くことができていたが、今は病棟実習がないため、入院中の子ども達の様子を理解するために、白血病の子どもとその父親が主人公のドラマで、子どもの入院環境・病気の子どもの心理・家族の心理・子どもを支える多職種 の存在と役割等を理解する材料として利用した。 また、実際に小児病棟で子ども達としている遊びを紹介し、実際におもちゃ作り等に取り組む時間を設けた。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された		やや達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業評価「到達度自己評価」を見てみると、「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」に回答が集中していた。理由としては、元気な子ども達は実習等で実際に接してきているが、病気を抱えている子ども達とはかかわったことがなく、また、医療現場という異質な世界はイメージがつかないため、何となくは想像できるが、理解できた、までには至っていないのだと考えられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、通常保育でも見られる体調不良時への理解にもつながっていると考えているため、配慮ができるようになってほしいことからDPをDP2としたが、実際に受講生たちは「医療保育の知識を習得した」という感覚を得たことが授業評価の回答等でわかった。本科目の位置づけ的には、通常保育の発展との位置づけであるが、学生達には全く異質な保育としてとらえられた印象がある。このことから、内容的妥当性は比較的低いと評価している。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	本科目は完全な選択科目であり、2年前期は時間割上過密であるため、学生の負担を軽減させたく、授業時間内でほぼ完結できるようにしている。そのため、自由記載にあるように授業の課題以外に学修していない理由に「どうやっていいかわからなかったから」という回答が出てきた。授業自体の進め方は、基本的には「医療保育を理解するための講義」と「病棟での遊びの体験」という2つの柱で毎回の授業を展開していった。医療保育の理解については、小テストで理解度を確認したが、受講生理解はよく、小テストの結果は平均点であった。また、あそびの実践で体験したあそびを、行事等で活用してくれ、「授業→実践」が現実に行われたことは授業の成果として評価できると思う。問題としては、いかに受講生たちに医療保育が自分たちが学んでいる保育と極端にかけ離れたものではないことを理解してもらえるようにしなければならないということである。次年度は、医療現場に関心が向くような内容ではなく、もっと病児そのものに関心が向くよう授業内容を精査していきたい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	選択科目であり、受講生たちの受講動機がまちまちであるため、方向性をどうするか、難易度をどこに設定するか、等毎年悩んでいる。その結果、今年度は、漠然とした達成感しか与えることができておらず、受講動機に「関心のある内容である」と答えてくれた受講生に満足のいく授業が展開できたかは不安が残る。次年度でこの科目は廃止となるが、今年度の反省を踏まえ、最後の年もさらに受講生のニーズに適した授業内容で取り組んでいきたいと思っている。
------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	保育
氏名	阿南 寿美子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
発達心理学	1	前期	必修	いいえ	75

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は卒業必須科目であるとともに資格取得に必要な科目であることを学生も理解しているため、幼稚園教諭免許、保育士資格いずれかを希望する学生は全員受講している。対象学年は1年生(前期)であり、子どもについての理解はまだなく、大学の授業のあり方にも慣れていない。しかしながら、子どもの発達を理解することはこれから保育者としての子ども観、保育観を形成していくために重要な科目であると認識している。 講義の進めるにあたっては教師から一方的に話を進めるだけでなく、学生自身も主体的に考えることができるように、ディスカッションやこれまでの経験を振り返ることができるような内容を取り入れるよう心掛けた。また、講義を主体的に受講することを意識づけるために、評価方法に授業ノートの提出を取り入れた。スライドは授業用と学生配布用を準備し、学生が配布されたスライドの資料を活用できるようにしている。また、スライドを中心に行っているがその他補足説明を聴き、ノートに記入するように働きかけることにより、授業へのメリハリを持たせるように工夫した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な評価は80点(最高点92点、最低点60点、S-3人、A-40人、B-24人、C-7人)である。57%以上の学生がSまたはAを取得していることから目標はやや達成されたと考えられる。また、D評価該当者は昨年度は7名であったが、今年度の該当者はいなかった。しかしながら試験得点のみを考えると60点を下回る学生がいることから、後期の科目につなげて個別の学生指導を行っていく必要があると思われる。 評価の際、学生の授業ノートの確認を行うが、担当講師の説目を詳細に記録している学生の得点が高い。聴き取る力と理解する力を伸ばすことができるように検討していきたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は「専門科目」における「保育の対象の理解に関する科目」に位置づけられており、幼稚園教諭免許状(必修)、保育士資格(必修)の科目であり、この科目を基盤としてその後の科目が展開される。学生はいずれかの免許・資格を取得する目的を持っているため、比較的受講の意欲は高い。 DPに関しては、試験解答状況を見てほとんどの学生において現段階での課題は達成できていると考えられる。 以上のことより、内容的妥当性には問題はないと考えられる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業時に学生の発言を促し、講義を進めていくことも多く、それにより教師の話す内容をしっかり聴き取り考えようとする様子が見られる。しかしながら発言する学生に偏りもあるため、発言しやすい雰囲気作りも含め多くの学生に機会を設けられるように検討していきたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	全体的には学生の授業への取り組み状況及び評価結果を見ると、概ね授業の目標は達成できたと考えられる。 学生の理解状況では、基礎的知識については理解できているようではあるが、思考的側面についての理解はまだ課題を残している。本科目の特性を考えると今後の科目に今回得た知識を学生自身が関連付けられるように展開できるよう心掛けていきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	保育
氏名	阿南 寿美子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
乳幼児の発達理解と遊び	2	前期	選択	いいえ	96

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は資格取得に必要である科目であることを学生も理解しているため、幼稚園教諭免許、保育士資格いずれかを希望する学生は全員受講している。受講学生は、1年次の学びや実習を通して子どもの発達理解や個別の特性を理解しつつある段階であると考えられるが、2年次になると実習で実際に設定保育を行うことになる。その際は、理解するだけでなく子どもの状況を鑑みて、個及び集団の子どもに働きかける必要性がある。 オムニバス科目のため、幼稚園教諭に「乳幼児の遊び」を依頼し、学生が体験した遊びを基に指導案を作成するという方法を用いた。しかしながら、体験した遊びをただ「楽しい」で終わってしまっている場合が多く、指導案立案に活かせていなかったことから、今年度は遊びの体験の後に毎回遊びの解説と簡単なまとめを行う時間を設けることにより、保育者としての視点を持ちながら遊ぶことを目指した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された		やや達成された	達成された		達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な評価は84点(最高点97点、最低点51点、S-33人、A-39人、B-16人、C-6人、D-1人)である。75%以上の学生がSまたはAを取得しており、目標はほぼ達成されたと考えられる。 学生による授業評価においても、「到達度自己評価」「授業の質的評価」に概ね「まあまあそうだと思う」以上の評価がなされている。しかしながら、全員が合格点に達したわけではなく、授業評価においても以上の2つの項目に対して「少しそうでないと思う」と判断している学生が数名いる。このような学生を見極め、対応していくことができるよう次年度の課題として検討していきたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は「専門科目」における「保育の対象の理解に関する科目」に位置づけられており、幼稚園教諭免許状(必修)、保育士資格(選択)の科目である。受講生はいずれかの免許・資格を取得する目的を持っているため、比較的受講の意欲は高い。 また、DPIに関しても、子ども理解、保育者としての対応など指導案の作成を重ねる毎に深められており、紹介した遊びを基に他の遊びに興味を持ち調べたり、教材を作成するなど意欲も高くなっていった。 以上のことより、内容的妥当性には問題はないと考えられる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価得点の平均において3.75点であった。評価基準に関しては随時示していたが、実際にどのように評価されているのかが学生には伝わっていなかったと考えられる。また、授業時間内に授業内容、指導案作成方法、遊びの展開方法など個別に対応していたが、一人の学生に時間がとられることにより、全ての学生に対し丁寧に関わることができなかったと考えられる。 次年度に向けては、評価方法も含めて、適宜伝えていく、学生が質問しやすい展開を考えるなど改善していきたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	学生の授業への取り組み状況及び評価結果を見ると、概ね授業の目標は達成できたと考えられる。 しかし、本科目は他の専門科目とも密接に結びついているが、学生には科目ごとの関連が理解しにくいようである。また、オムニバスの科目であるため、同時に授業を担当する教員とも授業内容のすり合わせ等連携しながら、授業を展開していきたい。また、学生がより実践に結びつけることができるように、個別の理解度を確認しながら対応できる時間を設けていこう改善を図りたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	保育
氏名	命婦 恭子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
子どもの臨床心理	2	前期	選択	いいえ	84

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	保育の現場で子ども心理を理解するために必要な知識を身につけ、子ども一人一人に向き合い考える力を育てることを目的とした授業である。臨床心理学的な理論を学び、子どもの心理を理解するための枠組みを身につけることと、エビデンスに基づいて子どもを総合的に理解するために心理アセスメントという概念を学ぶことを軸に授業を実施した。また、これらの知識に基づいて個別の事例について考えることができるように、授業の中に体験的なワークを多く用いて、一番身近な事例である自分自身について考える作業を取り入れた。自分自身の心理や個性を理解することから子どもの心理や個性を理解することへと展開し、学生の理解を促すよう工夫した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された		やや達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	講義の中で、学生の理解を確認するために小テストを複数回実施したが、52%の学生が8割以上の得点であり、子どもの心理を理解するための知識を取得していることが確認できた。また、事例に対する考察を求めるレポート課題では、60%の学生が8割以上の得点を取得しており、授業の目標が達成されていると評価できる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	該当するDPの「個々の子どもを深くとらえ、保育としての適切な対応を考えることができる」という目標を達成するために、子ども理解の枠組みとなる臨床心理学的な理論を知識として身につけることと、事例について考える力を育成できるように授業内容を構成した。受講生は1年次の科目において子どもの心の発達についてはすでに学習している。そのため、「人の心のありようを理解する」ということや「心理アセスメント」という考え方や技法を学生自身が体験とともに理解することに重点を置いて授業を構成した。後半は、心理臨床の技法について理論の解説とワークを行い、後期の「保育カウンセリング」や「保育相談支援」の授業内容とのつながりを持つように構成している。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	学生による授業評価のうち、授業の質の評価に関する項目の平均点が、3.4～3.6であり、各回の学習課題などを理解できていないまま受講している学生がいることがうかがえる。そのため、今後の課題として学習課題と講義内容のつながりについてより明確に説明し、学生が目標を意識してワークなどに取り組めるように改善したい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	該当DPに沿った講義内容を組み立てて、多くの学生が学習課題を達成していると評価できる。ただ、授業評価の結果から、各回の内容と学習課題の結びつきを十分に理解できていない受講生の存在が示唆されており、来年度には、より丁寧な説明をするなど周知のための工夫が望まれる。
-------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	保育
氏名	藤田 稔子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
子どもの保健 I b	2	前期	選択	いいえ	97

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	この科目は、1年後期開講の「子どもの保健 I b」を踏まえての内容であるため、学生にとっては勉強の方法などが慣れた状況での受講であったため、学生にとっても教員にとっても戸惑いなく授業を進めることができた。また、この科目は、保育士資格必修科目であるため、ほぼ全員が受講することになる。しかし、受講動機を見てみると「関心のある内容である」と23.8%の受講生が答えており、このことは、授業への意識の高さを反映していると考えている。 昨年度までは、授業内容が保育科の学生にとっては難解であるため、負担を軽減させるために年々配布プリントの記述を充実させてきたが、その結果、年々定期試験の結果が芳しくなってきた。そこで受講生が1年の時から（「子どもの保健 I a」の時から）配布プリントを改善し、ノート作成を必須とすることにした。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	この科目は、知識理解が主の科目であるため、評価方法の大半を定期試験で評価した。定期試験があること、出題は万遍なくされることは、受講生には周知のことである。そのため、各回の授業への取り組みは真剣であり、ノート作成を充実させ学生自身が自分のノートを「宝物」というほどの完成度であった。また、ノート作成をする中で、授業中の内容だけでなく、更なる知識を図書館等で調べノートに記述する、等の努力する姿も実際に見る機会が多々あり、また、授業評価の自由記載にも記載されている。 定期試験の難易度は例年と変えてはいないが、点数のみならず、解答の内容を見ても、レベルアップを実感しているところである。しかし、学生の自己評価はおおむね「わりにそうだと思う」に回答が集中しており、科目内容が難解であることが「かなりそうだと思う」に転じない理由ではないかと解釈している。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	科目自体の内容的にも、また、「到達度自己評価」から見る受講生の回答からも、DPにおける本科目の位置づけから見た内容的には妥当であると考えられる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	講義をしっかり聞き、必要に応じてしっかりメモを取る。また、メモは授業内容を思い出せるようなメモにする、といことを1年の時から指導してきた。それができように授業スライドは、スマホ等で撮影することを許可している。受講生は、授業への取り組みも真剣であり、ノート作成もしっかりと取り組んでいた。学生がしっかりと学修できるという状況にはなった。しかし、ノート作成の負担度は大きく、このことは、複数名授業評価の自由記載に記載されている。学生の負担が増したことで、他科目への影響がなかったか気になるところであるが、自由記載に「熱性けいれん」になっている子どもを見たとき、対処すべきこと等もすぐに思いうけれることができた」「難しい内容だけど、学べてよかった」等の記述があり、受講生に身についていることが分かった。今後は、学生の理解の状況と負担度のバランスを考えた授業の進め方を工夫していきたい。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	授業評価の各項目をはじめ、定期試験の結果からも、受講生は積極的に学修し本科目の内容を習得できていると評価している。しかし、この習得に至る状況は、学生の負担が大きいことは否定できない。2年前期は時間割上にも余裕がないため、今後は、達成目標の設定を見直し、学修時間の確保に負担が生じないように工夫していく必要性があると考えている。
------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	保育
氏名	出末 登代子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
子どもの食と栄養	2	前期	選択	いいえ	45

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	◎調理実習及び一部の演習は、グループで取り組むためリーダー等役割を決めるなど事前の計画を立てた。また食育実践発表(調理・演習)においては、早期から準備に入り主体的に取り組めるようにした。しかし、学外実習準備等で忙しい様子がうかがえ、※1十分な発表準備時間が得られたとはいえないようであった。 ◎幼児期の食育は『子どもみずから「楽しく食べる」』※2を目的に子どもが主体的に取り組むことを目標にしている部分もある。このことから、学生が学んだ体験を幼児期の食育・クッキング保育にスライドできるように、レシピをいくつか調べ、献立の組み合わせを考える課題を課した。今年度は新たに間食のレシピにクッキーを加え、クッキーのレシピを調べるところからおこなった。 ※1根拠 4. 学習量の評価及び自由記述の評価(4)授業の課題以外に学習しない理由より ※2根拠 「保育所保育指針」「楽しく食べる子どもにー保育所における食育に関する指針ー」(厚生労働省)の食育の目標及び内容より
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	◎DP1知識理解においては、「到達度の自己評価」(2)知識を確認、修正し、新たに得ることができた:平均値4.2・中央値4.0より達成されたと考えたいが、「到達度の自己評価」(3)事象を理解する視点や考え方を得ることができた:②少しそうでないと思う4.9%(2名)であった。1回目小テスト(知識理解の間)Aクラス40.2±8.9、Bクラス35.7±9.4(50点満点)とクラスに差がみられた。また調べる必要のある課題を出しているにもかかわらず、6. 図書館等の利用(1)図書館等①「使用しなかった」55.0%、(3)インターネット等①「使用しなかった」27.5%であった。以上よりDP1は【やや達成された】とした。 ◎DP5技能表現においては、自由記述にあったように「忙しい」「時間がない」中、「到達度の自己評価」(7)自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた:平均値4.0中央値4.0であり、食育実践発表・食文化8.3±1.3(10点満点)、事例発表16.2±1.4(20点満点)より8割に達成していた。また自由記述で『自宅で調理をした』ものが数名いた。これらに加え「子どもの食と栄養」の技能表現・特にクッキング保育は経験の積み重ねが必要であることを加味し【達成された】とした。 ◎成績80.8±7.9及び成績の分布S:9%、A:56%、B:24%の結果と、「学習量の評価」②自分なりのノートを作成したものが73.2%いた。以上の結果とDP1とDP5を振り返り【やや達成された】とした。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	◎DPの位置づけからみでの内容的妥当性 授業評価のサンプル数が少ない為、内容的に妥当であると断言しがたい。しかし「到達度の自己評価」の高い部分『④わりにそう思う ⑤かなりそう思う』部分において「学習到達度の自己評価」他項目と比べ、(2)知識の習得の項目85.4%であり、当教科のDP1と、また(7)技術を身につける項目73.2%から当教科のDP5と関連性が考えられた。このことから内容的妥当性は評価できるのではないかと推測される。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の進め方において、「授業の質の評価」を振り返り、後期授業では理解しやすい説明に努めたい。 課題としては、保育の専門外における栄養等の専門用語の理解が難しい様子が授業でうかがえた。改善方策については、来年度に向け時間をかけて練っていき たい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	後期と併せて検討をおこないたい
------------------------------	------------------------

リフレクションカード 2015年度前期

学科	保育
氏名	岩田 美穂子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
保育内容総論	1	前期	必修	いいえ	75

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①1年生前期の授業なので、保育内容の各論である領域ごとの保育内容の研究の授業が少ないうえでの、総論の科目である。必修科目であるが、保育内容の各領域の科目と異なり科目名から具体的に学びの内容がわかりにくいようであった。そのため、シラバスでは幼稚園教育要領や保育所保育指針などの必要な知識や考え方の講義と具体的な演習形式の授業を交えて行った。 ②今回の受講動機によると、63.4パーセントの学生が「必修科目である」という動機で、また、ほとんどの学生が幼稚園免許及び保育士資格の取得を目指しているにもかかわらず、「資格取得に必要である」という受講動機がわずかに53.5パーセントであった。このことは、どうとらえれば良いのか理解に苦しむところである。 ③学生の学習準備状況について、他の関連科目の先生方からも授業の進行具合や、授業方法をお伺いして授業内容の参考とした。 ④1年次の前期は不慣れなことから、課題は予習の他は各自図書館やインターネットで調べ物をするのみにし、グループワークの発表準備やレポート作成は授業時間内で行うことができるようにした。各自、大学図書館や市立図書館などで図書を借りたり、新しく参考図書や雑誌などを購入している学生も見られ、意欲的である印象を受けた。ほとんどの学生が準備を良くし授業に臨んでいた、一方、一部なかなか提出物などが完成しない学生も見られた。⑤「説明は理解しやすいものであった。」という項目で、低い評価になったいた。全体を通して、私の指導力の不足であり、学生に困難な思いをさせたことと反省している。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された				やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は、77.4点であった。再試対象者1名。欠席が多く再試資格なし1名。理想的レベルの80点に達した学生は、46名であった。標準的レベルと設定した70点から80点以下の学生は、27名である。合計73名(97.3パーセント)の学生が標準以上のレベルに達している。一方、標準的レベル以下の学生は上記の2名のみであった。小テストの半分以上を占める幼稚園教育要領や保育所保育指針に関する基礎的知識に関する設問は、全員が全問正解であった。学生の授業評価アンケートの結果から考えると、授業の質について特に、「説明が理解しやすいものであった」という点が低いことが深く反省される。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけから見た内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけから見た内容的妥当性 本科目は、卒業必修、幼稚園二種免許状、保育士資格の必修科目でもある。学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。 ②DP:行動目標から見ての内容的妥当性 DPの観点では、全般的評価に当たる「自分なりの目標を達成した」の質問に③まあまあそうだと思う、④わりにそうだと思う、⑤かなりそうだと思うと答えた学生が94.5パーセントである。このことから、内容として妥当であると考えられる。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと考える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の進め方についての自己評価及び改善課題として、グループワークの演習では学生同士の話し合いや発表の活動が充実していなかったと思う。大学らしい演習の仕方や、研究的雰囲気を出し出すような授業の進め方を考えていく必要があった。また、学生の興味・関心を十分に引き出すことができなかったと反省している。結果として十分な学びができなかった学生には申し訳ないと思う。 改善点としては、学生の実態を考慮して、1. 毎回の授業内容を色々と盛り込まず、一つに絞る。2. 一つのことを丁寧に、ゆっくり簡潔に伝える。3. そのために、スライドとプリントで、言葉を少なくして、伝え、4. 学生がゆっくりと考えられるようにする。 5. 最初は、他の先生方がなさっているように、テスト形式で毎回提出させ、理解の状況を把握する。6. 授業出席記録シートに、まとめと課題を記入して、次回につなげる。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	厳しい学生からの意見に心が折れそうですが、皆、保育を目指して学ぼうとする学生達なので、さらに学習意欲が湧くような指導をすることが教員の使命だと考えます。この1年生では、後期に授業がありますので、先に示した改善案と、何より学生の真面目に勉学に取り組もうとしている姿勢を大切に育て、自信を持って自分の意見を発表したり、話し合いに参加できるように支援していきたいと思います。
------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	保育
氏名	藤田 稔子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
保育内容の研究・健康	1	前期	選択	いいえ	75

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	この科目は、入学直後であり、まだ保育について何も学んでいない状況で開講されている科目であるため、可能な限り実際に体験したり、遊具に触れたりしながら学べるように授業計画を立てた。昨年度は、授業の後半に模擬保育をグループワークでおこなったが、幼児のイメージが乏しく、受講生には難しい状況であった。そのため、今年度は、あくまでも教材を通して理解を深めるという方向性に変更し、前半の講義内容とリンクしやすくした。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された					やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	この科目は、前半を知識をまとめるための講義・演習、後半を教材発表、の構成で展開した。前半の知識の整理ができているか否かを小テストを実施することで測った。小テストは、3回実施したが、第1回目で100点を獲得した受講生は1名のみで、90点台が7名(9.6%)、平均63点であった。しかし、第3回目は、100点が8名(10.8%)、90点台が24名(32.4%)に増加し、平均83点になり、勉強のコツを得たのか理解が深まったのか、小テストで点数がとれるようになった。受講生の学修量保評価として、授業の記録を自分なりにノートを作成した学生も多く、自ら学ぼうという姿勢が見られたことは、学生の目標達成「やや達成された(平均値4.0前後)」に集中した結果だと評価している。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	入学直後に開講するこの科目は、授業評価「学修到達度の自己評価」を見ると、受講生のこれからの専門科目への取り組みに動機づけとなる効果的な位置づけになったと考えられる。1年前期としての内容的妥当性はあるが、科目が十分に理解できているかと言えば、不十分であると思っている。カリキュラムツリーに示されているように、段階的に他科目を学修することで本科目の内容をさらに深め、統合し、実習で実践する中で本当の意味で目標が達成できると考えている。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	この科目が開講されている時期は、多くの受講生がまだ乳幼児と実際に接したことがなく、イメージがわきにくいいため、できる限り具体的な子どもの様子を描写しながら授業を進めた。また、実際にお散歩をする、公園に行って遊具で遊んでみる等の体験を通して、受講生の気づきを中心に講義の内容を深めていくように工夫をした。また、学生達が発言すること奨励し、発言をすることで考える、他者の発表を講評する、等の思考する力と共に、将来子ども達の前に立つことを考え、他者の前で表現するという経験を重ねることを大切に授業を進めた。この科目で大切に考えていたのは「体験」であったが、受講生の授業評価の自由記載を見ると「小テスト」の負担が大きいことがわかった。次年度は、知識の習得度を問う方法を工夫することを考えていきたいと思っている。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	受講生の「到達度自己評価」の分布をみると、学生自身の実感として本科目が「わかった!」という感覚は持ちにくいことが読み取れる。ただし、その内容を見たとき、これからの学修への関心を高めたということにも読み取れることから、1年前期開講科目としては、ほぼ達成できていると評価できる。しかし、受講生にとっては達成感が実感できにくいことも明らかになったため、今後は、より具体的に、受講生にとって身近に感じられる内容にブラッシュアップさせていく必要があると思っている。
------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	
氏名	下山祥子 ・ 脇 信明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
指導法の研究	2	前期	選択	いいえ	97

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	これまでの学生が学習してきた科目をより実践的に、かつ具体的な指導力の育成を目指す科目であるため、保育現場での活動を紹介しつつ、保育者がどのように保育実践を行っているのか、またそれにより子どもがどのように成長しているのかを理解し、また学生自身が考えることを重視した科目である。 具体的には、保育者が記述した、実践記録や場面記録を教材として用い、課題や困難を抱えた子どもに対してどのようなねらいをたて、どのように手立てを行ったか、そしてどのように子どもが対応し成長をしていったかということを確認できるようにした。また随時「自分だったらどのようにするか?」という問いを投げかけつつ、学生自身が問題意識と当事者意識をもちつつ保育方法を考えるという授業方法を取り入れた。 学習動機としては、幼稚園教諭必須の科目であるため、必須科目と資格取得に必要であるという項目の選択がほとんどであり、ちゃんとこの科目の性質を理解できていることが伺える。同時に、幼稚園および保育所での実習においても指導案の実践が求められるため、より現場に即した指導法を学ぶことへの学習要求が高いことが予想された。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された					
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績を評価別にみると、S:24% A:28% B:19% C:27% D:3% という分布であった。D評価となった3名のうち2%は退学予定者であるため、ほぼ全員が単位の取得がでていることをみると、やや達成されたといえるであろう。今回はC評価の割合が多かったため、「達成できた」ではなく「やや達成できた」としたい。C評価の学生をみると、多くはレポート等の課題提出が悪い状況が伺える。つまり自宅での学習の確保ができていない状況があると考えられる。学生の学習量の評価をみても、予習や復習などの取り組みは0もしくは1回であるという学生がほとんどを占めているところからみると、積極的・継続的な自宅学習が行われていないことから明らかであろう。よって、今後はよりレポート課題での内容や取り組み方を紹介しつつ、その配点を重視するような配点のあり方を検討するなどをしていくことが求められる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DP等における本科目の位置づけおよび開講時期については、現在の2年次前期が妥当であると考ええる。 その理由として、まずは学生の学習の準備性という視点からであるが、保育所実習や教育実習 I を通して具体的な子どもの様子を想起でき、かつ保育者の働きかけ方(＝指導法)にも意識を向けることができるようになってきているという点である。次に、夏休み以降に実施される、学生自身の保育計画の立案と実施が迫っている時期だからこそ、より切迫感をもって授業に親身に取り組むことができると考えるからである。なので、実習時期の変更がない限りは、この学期に当科目を開講することが最も適切であると判断する。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	現在、2名で科目を担当している。また2名それぞれが7回ずつ授業を担当しており、また科目の内容も深く運動はしていない。下山先生は幼稚園現場での実戦経験を活かし、ビデオを中心とした子ども理解とその指導方法のあり方を中心的に行っており、脇の分担では各年齢別の発達の特徴を概観しながら、その特性にそった指導のあり方や事例別の指導法のあり方とその基本的対応についての授業を行っている。2人の立場からのそれぞれの指導法や指導論を学ぶことができるという利点がある反面、科目としての統一感や内容の深まりは抑止されるという課題を持っているであろう。次年度以降は1名で行う予定にしているのでそういう課題も解消できると考えられる。 また前述したが、学生のレポートへの取り組みをより充実するためにも、図書館の利用などを促しつつ、学生が多くの保育実践や保育方法と関わるができるような配慮を今後行うことも求められる。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	達成状況の総括としては、学生の課題等への取り組みには何点かの課題点があるものの、おおむね学生の保育に対する指導法への理解とそれをもとにした判断と対応力、そして保育を省察する意識の涵養を行えているのではないかと考える。
------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	保育
氏名	命婦 恭子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
障害児保育Ⅱ	2	前期	選択	いいえ	98

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	近年、保育現場では、発達障害についての知識を身につけた保育士のニーズが高まっている。また、発達障害についての医学的、臨床心理学的知見は日進月歩であり、保育の専門家としては、現場に出てからも常にその知識の更新が望まれる。それを受けて、この科目では、発達障害についての専門的により正確な知識と対応方法、さらに卒業後にも知識を得るための方法を修得することに重点をおいて授業計画を立てた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された		やや達成された			やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	講義の中で、学生の理解を確認するために小テストを複数回実施したが、53%の学生が8割以上の得点であり、発達障害についての知識を身につけていることが確認できた。また、事例への対応を考えるレポート課題では73%が8割以上の得点であり、個別の事例について深く考えることを受講生が体験できたと評価している。また、保育現場で発達障害児を支援するために必要な技術として絵カードの作成を課題とし、全員の受講生が課題を完成させることができた。しかし、学生の達成度自己評価の項目は中央値が3.0と充分に高いとはいえない。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	1年生後期の「障害児保育Ⅰ」では、様々な障害を持つ子どもの特徴と保育方法についての知識を広く身につけることと、必要に応じて情報を収集するスキルを身につけることを目標として授業を行った。それに積み上げる科目として、発達障害に特化して授業を構成している。該当するDPの「個々の子どもを深くとらえ、保育としての適切な対応を考えることができる」「保育に必要な基礎技能を身につけている」という目標を達成するために、発達障害についての知識と臨床心理学的な理論に基づいた対応方法、教材の作製を組み合わせた授業の構成とした。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生による授業評価のうち、説明に対する理解の項目の評価の中央値が3.0、平均値が3.5と充分でない学生の存在が示されている。授業中に学生が参加する機会が作られていたかという項目についても、中央値が3.0、平均値が3.4と高いとはいえず、来年度に向けては、講義内容について学生が理解を深めるために受講生自身で作業をしたり考えをまとめるような取り組みを増やしていきたい。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	カリキュラムマップの流れや、該当DPIに沿った講義内容を組み立てて、小テストやレポートの内容からは多くの学生が学習課題を達成していると評価できる。しかし、学生の自己評価は充分といえず、「学生が学べた」という実感を持てるように、講義内容について学生自身で考えを深める時間を確保したり、成果のフィードバックを充実させるなどの取り組みが必要であると感じた。
------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	保育科
氏名	北野久美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
乳児保育Ⅱ	2	前期・	必須		95

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
		○			

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	重点を置いたこと: 外部講師であること、現場を持っている事を強みと考え、現場での実際を理解してもらうべく、子どもの姿や保育士の姿を録画し、それらを基に検討材料とする。また実際に作成し使用している手作りおもちゃ等を創る事で、現場に出てからの乖離が無いよう配慮し、手作りおもちゃ作成も授業の中で実施。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	おおむね達成	おおむね達成	おおむね達成	おおむね達成	おおむね達成	おおむね達成
(2)上記の評価の根拠を簡単に明示下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	試験結果が物語っているように、教科書を中心と仕上がりながらもその解説を実態に基づいて行った結果として、おおむね理解はできている。ただし、まだ乳児保育そのものについては現場での現任訓練がかなり必要とされる内容だけに、基礎的事項についての関心を持つことが最大の目標と考えていることから、全体的におおむねという評価としたい					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	はじめの指定がすでに、DP2－1であるので、妥当性の評価はここでは述べる事が出来ない。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	講義室の形状からPC環境が整っていないため、パワーポイントを駆使できない。しかし、テキスト中心に解説を加えた進め方に加え、ビデオを視聴することで考える きっかけづくり、追体験、を行うことはできた。乳児保育はネットや資料の活用より、以下に乳児の特性を把握した上での対応ができるかどうかにかかっている、 むしろRPや事例に基づいた検討が有益であるととらえている。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	総括:乳児保育の基本は乳児の成長発達を理解するにとどまらず、その場での即戦力となる応答的な対応や、寄り添うことが出来、温かみのある環境となれるかど うかであることから、現場の実例、実際に体感できるような授業の展開にしてきたが、今後もそのスタンスで、実例をあげつつの理解促進を図りたい。また、対応のス キルを身に付けるための演習は多く取り入れていきたいと考える
-------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	保育
氏名	笠 修彰

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
社会的養護内容	2	前期	選択	いいえ	97

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は保育士資格取得のための必修科目であることから、資格取得を目指す全ての学生が受講している。授業実施にあたっては、社会的養護の担い手である保育士に求められる基本的な知識の獲得を目指すとともに、具体的な事例を用いた個人ワークやグループディスカッションを多く取り入れ、授業での学びをできるだけ実践と関連付けて考えることができるよう工夫した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	達成された				やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な評価としてS-21名、A-46名、B-19名、C-10名、D-1名であり、S、A評価を取得した学生が全体の約69%以上であることから、目標は概ね達成されたと考える。また再試対象者はいなかった。他 方、学生による授業評価をみると、「学習達成度の自己評価」「授業の質的評価」のすべての項目に対して、97～98%が「まあまあそうだと思う」以上の評価としている。しかし、上の2つの項目に対して、数名の学生は「少しそうでないと思う」と評価しており、このような学生にいかに対応をしていくかが次年度に向けた課題である。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、保育士資格取得のための必修科目であり、「保育の内容、方法に関する科目」に位置づけられている。資格取得のための必修科目であることを学生も理解しているため、受講に対する意欲は比較的に高い。 DPでは、学生による授業評価の知識理解の観点、技能表現の観点での自己評価について、97%以上が「まあまあそうだと思う」以上の評価をしている。また、毎回の授業終了後に各自のワークシートの確認を行ったが、回を重ねるごとに考察に深まりがみられた。 以上のことから、内容的妥当性は問題ないと思われる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業は、事例を用いた個人ワークやディスカッションを中心に展開したが、事例の説明や解説に時間を要し、学生自身が考える時間を十分に確保できなかった。次年度へ向けて、教材の修正や事前に事例を配布するなどの改善を図っていきたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	学生の取り組み状況や評価結果から、本科目の学習目標は概ね達成できたと考える。 しかし、技能表現に関する面ではまだ課題を残している。この点に関しては、今後も関連科目の担当教員に指導を引きついでいただくよう依頼を行うとともに、教材の修正を行うことで改善を図っていきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	保育
氏名	白川深雪

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
音楽理論	1	前期	選択	いいえ	74

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①入学したての一年生であり、音楽理論を全く知らない学生がほとんどであった。中には音符や鍵盤を知らない者も居り、彼女らにとってはかなり厳しい授業内容だったのではないかと思った。音楽知識の基礎からのスタートとなったがなるべく興味関心を持たせるよう様々な例を挙げ理解力を深めさせる努力をした。しかしなかなか自分で勉強する意思が見られなかった。もう少し具体的に予習復習内容を提示すべきかと思われた。普段の授業の状況からみて試験問題は持ち込み可と判断し、内容がしっかりわかっていないと解けない問題を作成した。再試対象者を増やしてでも試験後に理解を深めてもらおうと試みた。②授業の最初に前回の授業の復習を兼ねて一人ずつ順番に回答させていくなどわからないところを自覚させ復習の大切さを意識させ本時での授業に挑ませた。③授業内容改善をすれば、よりこまめにミニテストを行い、学習状況と理解度を確認していく必要がある。④理解が難しい音楽理論の専門的知識については教材だけでは伝わりにくい為、常にわかりやすい資料を配布してきた。再試者の自由記述にて保育現場にて音楽を指導していく中、音楽理論の大切さについて学生なりに考えをまとめていた。再試により授業では意欲を持たなかった者たちの新たな意識改善が見受けられた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	知識理解における最終的な成績平均点は72点であり、再試者は16名と予想よりも多かったが理想的レベルである80点以上は22名であり、そのうち100点満点が3名、90点以上が13名と学生たちの学習への取り組み方とその結果に差があったもののやや達成されたと判断される。②技能表現については学生たちのアンケートによるとコールユーブンゲン(基礎歌唱練習)が難しかったと答えている学生もいたが、再試者0名で標準的レベルに達していたといえる。到達度自己評価の平均値は4.0、学びを深めたいと意欲を持つ、必要となる技術を身に付けるなども3.8と、本科目で必要とされる評価としては基準値に値していると思われる。③学習量の評価に関して授業課題以外に学習していない理由として挙げられたほとんどの回答が、「時間がなかったから」でありもう少し課題に力を入れられるよう明確な学習方法を指示するなど興味を持たせる工夫が必要かと思われた。④授業の質評価としては、テストや提出物の評価基準が明らかであった。期間内に行うべき学習範囲や課題が明らかであった、との評価が高かった。⑤授業の課題以外の自発的学習が増えるよう受け身授業でなく自発的に学ぶ意欲を持たせるよう工夫したい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPカリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性: 本科目は保育者に必要な知識と技術を養うための専門科目であり、基礎、応用を踏まえた幅広い教養を資するための専門科目として位置づけられる選択科目である。音楽理論は音楽の基礎知識が全くないものにとってはハードルが高い内容であるが保育の現場には欠かせない知識を身に付け、現場で実践するために必要である。学生の成績と音楽理論の必要性について記述レポートによる一定の成績をみると内容的に妥当である。②DP行動目標から見ての内容的妥当性: 成績評価から「知識・理解」に関する達成度が少し低めであった。勉強の仕方がわからない、や予習や復習をする時間がなかったなどの意見により方法としての妥当性には若干欠けるものがあると思われる。しかし全体的な平均は、学生の目標達成状況にて述べたように、72点であり、さらなる工夫により成績上昇と共に課題は改善されるであろうと思われる。③以上から、概ね内容的妥当性には問題はないと思われる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の進め方については、15回の中で音楽の基礎を学ぶのは難しく、課題は全て通しつつも必要性の高い課題に時間配分を多くとり、より実践に活かされる内容を重点的に組んでいけるよう改善したい。②学生の意見から授業の質の評価としてほとんどの学生が説明は理解しやすかったとの回答を寄せており方法としては続けられる授業内容であったと思われる。だが授業中に意見をまとめたり発表する場が少なかったためもう少し学生自身が自主的に参加できる形態を築くよう改善すべきである。③学習量の評価として予習復習時間が少ない為、その必要性和具体的な指示を示していく必要がある。授業の記録は配布資料に記録する他、自分なりのノートを作成してまとめた自主的な取り組みの意思が多く見られた。④情報利用としてのシラバスの活用は履修時に参考としておりその後の利用は少なかった。授業の予習復習にシラバスの記録をもっと利用し簡潔な授業内容の枠組みを把握させたい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	学生たちの達成すべき点である、歌うための有効なウォーミングアップと呼吸法、美しく響く声を出すということにおいては、授業スタート時に比べるとかなり上達し、美しく響く高い声を出せるようになったことから達成できたと思われる。正しい音程、リズムで歌う訓練は別室に分かれて練習をするなどの工夫をし達成できるよう努めた。若干名は不満足な結果ではあったが再試者は0名という標準的レベルには達した。音楽の仕組みを理解し素早く楽譜を読むための理論と基礎知識については、学生たちに理解できている者とそうでない者の差が出た為、必要な予習復習または、こまめなミニテストなどを行うなどの工夫をすることを課題としたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	保育
氏名	植村 和彦

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ピアノ奏法a	1	前期	選択	いいえ	74

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	入学時点で学生が備えているピアノ演奏技能に大きな個人差があることを念頭に置いた上で、事前に実施する「ピアノ等の演奏経験に関するアンケート」の記述内容や「春休みの事前対策レッスン(希望制)」の受講状況等も踏まえて、各自の進捗や演奏技術の習得状況に合わせた個別指導を行うことの出来る体制を採用している。2年間4期に渡って段階的に演奏技能を習得していくための基礎作りを目的としていることを十分に伝達すると同時に、週に一度の授業時間内だけでなく翌週の授業までの間に、各自で継続的に反復練習を積み重ねることが必要不可欠であるため、毎回の個別指導終了時に次回授業までに取り組むべき課題点や履修曲目の目安等について出来るだけ明確に指示するよう心がけている。また、特に入学以前のピアノ受講経験がなく、大きな課題に直面したり進捗が遅れたりしている学生が精神的に追い詰められることのないよう、意思の疎通をはかりつつ、少しでも前向きに取り組むことの出来るように助言している。 資格取得に関して「ピアノ奏法a」～「ピアノ奏法d」の4単位中2単位以上の修得が求められていることを踏まえて、まずは本科目において1単位を修得出来るよう最大限努力すること、またどうしても課題曲の履修が間に合わず当科目の単位修得が出来ない場合でも、次期の「ピアノ奏法b」において必ず単位を修得出来るよう、自らの計画性と展望を持って受講するよう指導している。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された					やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	科目独自の達成度評価に対する平均値は74点であった。到達度自己評価を見ると、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」の平均値は4.1点であった。また、課題曲の履修状況と期末の実技試験の評価を総合的に振り返ってみると、本科目の単位を修得した51名に関しては概ね標準的レベルに到達したことが窺えたことから、技能表現に関わる目標については、やや達成されたと言えるのではないかと。 その一方で、当科目の特性上、予め提示した課題曲の履修が間に合わなかった学生は単位を修得出来ず、次期の「ピアノ奏法b」において残された課題を補填することとしているが、これに該当する学生は23名で受講登録者中31%を占めた。また、再試験対象者は3名で受講登録者中4%であった。今後、この学生たちにおいても「ピアノ奏法b」において、出来るだけ早期に当科目の標準的レベルを満たすことの出来るよう留意しつつ、さらに手厚く指導していく必要がある。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は在学中の2年間4期に渡って継続的・段階的に進行していく実技系学習科目の導入的な位置にあり、資格取得を目指す上でも出来る限り単位修得しておくことを求めているものである。必要に応じて楽譜の読み方に関する基礎的な学習も採り入れつつ、ピアノ実技受講経験のない初心者でも無理なく基礎から学習を開始出来るように使用教材にも配慮しており、受講者全員が個人差はあってもそれぞれ基礎技能を習得している現状から、内容的には妥当であると考え。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 学生の技能面では大きな個人差があるが、全6名(専任1名、非常勤5名)の教員体制のもと、受講者一人ひとりの進捗に個別に対応しつつも、本科目ではあくまでも演奏技能の基本を習得することを目標としていることを念頭に置き、教育を行っている。また、初心者の学生にとっては一見ハードルの高いように思える課題曲の設定に関しても、4期を見据えた科目であるという特性を踏まえれば概ね妥当であると考え。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	本科目におけるレッスンの進行速度に関しては毎年の課題とも言えるが、「もう少しゆっくり進めて欲しい」という学生の記述も見られた。学生個人の現状をよく見極めてつつ指導に当たる意識を教員間でも共有することが求められる。また、授業時間以外での自主的な予習・復習に関して言えば、実技系の演習科目であるという特性上、ほとんどの学生が多く時間を充てて取り組んでいるということが、「学習量の評価」の集計結果からも、また「空き時間に弾いた」、「家で練習した」といった自由記述からも明らかである。しかし中には、「時間がなかった」、「余裕がなかった」といった記述も見られた。保育科の過密な1週間のカリキュラムの中でも効率的な予習・復習を積み重ねていけるように指導・助言していくことが大切であると感じる。 授業の進め方においては、何のためにピアノ演奏技能を身につけようとしているのか、学生自身が目標を見失ってしまうことのないように、今後控えている各種実習に臨む際や、就職後の保育現場での実践を日々意識・想定しながら継続的に学びを深め、技能を高めていけるように、一方的な実技指導に陥ることなく、対話を重ねながら進めていくことが重要であると考え。また、複数の教員で担当する科目であるため、グループ間で進行や指導方針等に過大な格差が生じないように十分配慮し、担当教員間で連携を図りながら進めていくことが求められる。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	ピアノ実技系演習科目の導入にあたる本科目の位置づけからみて、個人差はありながらも基礎技能の習得については概ね達成出来たが、上述の授業の進め方や教材設定の在り方においては、引き続き改善の余地があると思われる。また、担当教員の変更を求める記述も見られ、少人数制による実技指導を主とする本科目にとって、これも毎年の課題となっていることは事実である。これらの意見を真摯に受け止め、学生がより意欲的かつ主体的に学ぶことのできる授業環境を整えていくことを目的として、さらなる改善策を模索したい。 情報利用の面から見ても、シラバスの活用に関する「この授業を履修する際にシラバスの記載を参考にした」の設問に対して、60名(受講登録者中81%)が「参考にしなかった」と回答しているが、たとえ進度に大きな個人差がありシラバスに記載された各回の授業内容の目安通りに全員が進行することが不可能な本科目であっても、達成目標や授業計画の確認作業において受講者全員に大いに活用を促すとともに、引き続き担当教員からの説明と助言を十分に行っていきたいと考える。
------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	保育
氏名	植村 和彦

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ピアノ奏法c	2	前期	選択	いいえ	94

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考に記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目の前段階に位置づけられている1年次前期の「ピアノ奏法a」および1年次後期の「ピアノ奏法b」の単位修得状況が様々であることに加え、開講時点で学生が習得しているピアノ演奏技能にも大きな個人差があることを念頭に置いた上で、1年次の学習状況を踏まえつつ、各自の進捗や演奏技術の習得状況に合わせた個別指導を行うことの出来る体制を採用している。2年間4期に渡って演奏技能を習得していく段階においてより実践力を身につけていくことを目的としていることを十分に伝達すると同時に、1年次と同様に週に一度の授業時間内だけでなく翌週の授業までの間に、各自で継続的に反復練習を積み重ねることが必要不可欠であるため、毎回の個別指導終了時に次回の授業までに取り組むべき課題点や履修曲目の目安等について出来るだけ明確に指示するよう心がけている。また、特に開講時点でピアノ実技科目に関する資格取得要件単位を満たしていない学生や、大きな課題に直面したり進捗が遅れたりしている学生が精神的に追い詰められることのないよう、意思の疎通をはかりつつ、少しでも前向きに取り組むことの出来るように助言している。 資格取得に関して「ピアノ奏法a」～「ピアノ奏法d」の4単位中2単位以上の修得が求められていることを踏まえて、本科目において1単位を修得出来るよう最大限努力すること、またどうしても課題曲の履修が間に合わず当科目の単位修得が出来ない場合でも、次期の「ピアノ奏法d」において必ず単位を修得し、資格取得要件を満たすことの出来るよう、自らの計画性と展望を持って受講するよう指導している。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された					やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	科目独自の達成度評価(成績)における平均値は75.5点であった。到達度自己評価を見ると、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」の平均値は3.8点であった。また、課題曲の履修状況と期末の実技試験の評価を総合的に振り返ってみると、本科目の単位を修得した67名に関しては概ね標準的レベルに到達したことが窺えたことから、技能表現に関わる目標については、やや達成されたと言えるのではないかと考える。 その一方で、当科目の特性上、予め提示した課題曲の履修が間に合わなかった学生は単位を修得出来ず、次期の「ピアノ奏法d」において残された課題を補填することとしているが、これに該当する学生は27名で受講登録者中28.7%を占めた。また、再試験対象者は3名で受講登録者中3.2%であった。今後、この学生たちにおいても「ピアノ奏法d」において、出来るだけ早期に設定された課題曲の履修を修了することが出来るよう留意しつつ、さらに手厚く指導していく必要がある。 また、達成度評価(成績)の平均値にはクラス間で差異があり、本科目では全4クラス中で最も高かったクラスの平均値は81.5点であったのに対し、最も低かったクラスの平均値は71.1点と約10点もの隔たりが見られた。このようなクラス間格差の傾向は例年見られるものの、その理由は判然としない部分もある。今後も起こりうる可能性があるため、個別指導形式で学ぶ科目でありながらも、同時にクラス全体の状況にも十分配慮しつつ授業を進める必要があると考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は在学中の2年間4期に渡って継続的・段階的に進捗していく実技系演習科目の中核的な位置にあり、資格取得を目指す上でも出来る限り単位修得しておくことを求めているものである。1年次の履修状況は勿論のこと、「保育所実習」や「教育実習」において各自が実習先から提示される多様な課題曲、また就職試験受験時に求められる演奏実技課題への対策など、学生一人ひとりのニーズに応じた柔軟な対応が出来る体制を整えつつ、受講者全員が個人差はあってもそれぞれ基礎技能や保育現場での応用力を高めていくことが出来ている現状から、内容的には妥当であると考えられる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 学生の技能面では大きな個人差があるが、全6名(専任1名、非常勤5名)の教員体制のもと、受講者一人ひとりの進捗やニーズに個別に対応しつつ、教育を行っている。既に資格取得要件の2単位を修得済みの受講者に対する課題曲(応用編)の設定に関しても、4期を見据えた科目であるという特性と、実際の保育現場で求められる演奏技能の必要性を踏まえれば妥当であると考えられる。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	本科目におけるレッスンの進行速度に関しては今回の調査では特に学生の自由記述は見られなかったものの、1年次同様に学生個人の現状をよく見極めつつ指導に当たる意識を教員間でも共有することが求められる。また、授業時間以外での自主的な予習・復習に関して言えば、実技系の演習科目であるという特性上、ほとんどの学生が多くの時間を充てて取り組んでいるということが、「学習量の評価」の集計結果からも、また「放課後残って練習をした」、「色々な曲に挑戦した」といった自由記述からも明らかである。しかし中には、授業以外の時間に学習出来なかった理由として「時間がなかったから」という記述も見られた。保育科の過密な1週間のカリキュラムの中でも効率的な予習・復習を積み重ねていけるように指導・助言していくことが大切であると感じる。 授業の進め方においては、何のためにピアノ演奏技能を高めていく必要があるのか、学生自身が目標を見失ってしまうことのないように、今後控えている各種実習や就職試験に臨む際や、就職後の保育現場での実践を日々意識・想定しながら継続的に学びを深め、技能を高めていけるように、一方的な実技指導に陥ることなく、1年次以上に対話を重ねながら進めていくことが重要であると考え。また、複数の教員で担当する科目であるため、グループ間で進行や指導方針等に過大な格差が生じないように十分配慮し、担当教員間で連携を図りながら進めていくことが求められる。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	ピアノ実技系演習科目の中心にあたる本科目の位置づけからみて、個人差はありながらも基礎技能の習得および演奏技能の向上という点においては概ね達成出来たが、上述の授業の進め方や教材設定の在り方においては、引き続き改善の余地があると思われる。また、担当教員の変更を求める記述も見られ、少人数制による実技指導を主とする本科目にとって、これも毎年の課題となっていることは事実である。これらの意見を真摯に受け止め、学生がより意欲的かつ主体的に学ぶことのできる授業環境を整えていくことを目的として、さらなる改善策を模索したい。 情報利用の面から見ても、シラバスの活用に関する「この授業を履修する際にシラバスの記載を参考にした」の設問に対して、62名(受講登録者中66%)が「参考にしなかった」と回答しているが、たとえ進度に大きな個人差がある本科目であっても、達成目標や授業計画の確認作業において受講者全員に大いに活用を促すとともに、引き続き担当教員からの説明と助言を十分に行っていきたいと考える。
------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	保育
氏名	星野 木綿

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
造形 I	1	前期	必修	いいえ	74

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	オリエンテーションで造形一般が苦手かもしくは特異かを聞いてみると、圧倒的に苦手意識を持った生徒が多いのを実感する。受講動機の③関心のある内容であるの選択数が12人と低いのがそれを表している。本科目は必修科目であるので、なるべく苦手意識のある生徒も無理なく取り組み、関心を少しでも持てるような課題を工夫している。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された				やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に明示下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	到達度自己評価の(8)コミュニケーション力や表現力を高めることが出来たが3、8と低く平均に達していないことをふまえ、各授業で制作する時間の合間に発表やコミュニケーションをする時間を取り入れ、より緊張ある授業になるよう検討していきたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は必修科目であるが、個人のもともとの技術や知識量の差は大きいので、様々なレベルに合うよう、授業内容の工夫をしている。また、ほぼ全員が意欲的に授業に取り組むことができ、学習到達度の自己評価の(6)(7)が平均値を上まわっていることから、本科目の内容的妥当性には問題ないと思われる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	技能の向上に重点を置き過ぎていたことと、個人制作が圧倒的に多く、グループ制作が少なすぎたのが反省点となる。次年度に向けて、制作の合間をぬって発表の 時間を取り入れたり、環境づくりなどグループでできる課題も増やすことを検討していきたい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	授業外の取り組みについて、毎回配布して記入してもらっている感想シートには「家でもやってみたい。」という声が多かったのに対し、実際にはなかなか実行できて いないことが報告書の数値であきらかになった。家での復習課題についてもっと具体的に例をあげて提示し、意欲的に取り組んでもらうよう促していきたい。
-------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	保育
氏名	篠木 賢一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
幼児体育Ⅰ	1	前期	選択	いいえ	75

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は資格取得に必要なため、幼稚園教諭免許、保育士資格のいずれかを希望する学生は全員受講している。対象の学年は1年生(前期)であり、子どもの運動あそびや、その果たしている役割などは理解していない。今後資格を取得するために、子どもの発達や運動あそびの果たしている役割を理解することは大切であり、安全管理等の知識を得るためには重要な科目であると認識している。授業を進めるにあたっては、学生が子どもの運動あそびを実際に行いながら子どもの発達や運動あそびの発展等を理解できるように、ディスカッションや過去の経験を振り返ることができるような内容を取り入れた。また、今後の実習に生かせるように、授業後に内容をノートにまとめるように指導を行った。運動あそびではあるが、子どもの発達や運動あそびの理解が深まるように資料配布を行った。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均は92点(S－58人、A－12人、B－3人、C－1人、退学1人)である。ほとんどの学生がSまたはAを取得していることから、目標は達成されたと考えている。Sを取得した学生は、理想的レベルの見本が示せたり運動あそびの補助ができるようになっていたが、BまたはCの学生は授業中に達成することができなかったため、授業外や後期の幼児体育Ⅱにつなげて個別の指導を行っていく必要があると思われる。今年度は体育ノートの評価に加えなかったが、今後は授業中にメモを取る時間を設定するなどして、学生の理解を深められるようにしていきたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は「専門科目」における「保育の表現技術」に位置づけられており、幼稚園教諭免許(選択必修)、保育士資格(選択必修)の科目である。受講学生は資格取得を考えているため、受講の意欲は高い。成績評価を見てもほとんどの学生において現段階での課題は達成されており、内容的には妥当であったと考えられる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	体育館という環境のため、学生が説明を聞き取りやすいように注目を集めたり、聞き取りやすい環境づくりに努めた。また、教師からの一方的な講義にならないように、グループワークや学生が発言できるような内容で授業を行った。それにより学生が考えて発言・行動する姿が見られたが、発言する学生に偏りがみられるため、すべての学生が発言しやすい環境づくりができるように検討していきたい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	学生の授業への取り組みや評価結果を見ると、授業の目的は達成されたと考えられる。この授業では学生のみで運動あそびを行うため、実際の子どもの姿と重なることが少ない。今後の実習等の経験を生かせるように、学生が幼児体育Ⅱにつなげて考えられるような授業展開をできるように検討していく。
------------------------------	--

学科	保育
氏名	戸田由美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
児童文学	2	前期	選択	いいえ	55

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○			

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	「児童文学」の一番大切なポイントは、子どもについてだけではなく、現代に生きる大人の役割、子どもの役割をわかりやすく分析した上で、その時期に合った絵本等々を明示することである。0歳から3歳、3歳から4歳、4歳から6歳、就学後——といった感じに成長の段階に応じた、イメージの重要性、空想する力、大切なものを感じる力について、具体例を示しながら説明している。ことに、Q & Aというコーナーをもうけ、学生たちが実際の職場で困らぬよう数々の質問事項を受講者全員で共に考察している。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成されなかった	やや達成された		やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本科目は選択科目であるので、幾分意欲のある学生たちが受講していると承知しているが、その割には「思考判断」が75%程度なのは、「知識理解」がまずまず達成されていても応用力が足りない傾向にあるという事である。講義で習得できた知識から解答を如何に導き出すかという方法的試行錯誤が苦手な学生が多いようである。このあたりに関して、事例の出し方に工夫を凝らして説明することに時間を費やした。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラム上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は選択科目である故に、学生たちの専門科目に重ねて積み重ねる知識習得の架け橋になっている。そのあたりをも合わせて考慮して、内容的には妥当であると考え。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 思考判断の達成度が完ぺきではなかったたので 特に注意してこの点の強化に努めた結果、少しずつ改革されつつあるので、内容的には妥当であると考え。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	今後は、学生に進めている絵本、その他の関係書を基にテーマを出し合い、 学生と共に話し合う場を持ち、意欲的な意見交換ができるような授業展 開をしてゆきたいと考えている。学生たちの実習後の悩みを講義にもつ と取り入れながら考察してもよいのではないかと考えている。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	現段階においての学生の理解をもっと高めるためには受け身の講義に とどまらず、活性化させるべくグループミーティングの時間を設けたい と考えている。
------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	保育
氏名	財津 たか子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
子どもの生活と遊び	2	前期	選択	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
			○		○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	選択科目であり、1年間保育を学んだ学生たちなので、子どもの生活にかかわる課題を出して、それについて各自で調べ発表・討議する形をとった。全員が主体的に話し合いに参加できるように心がけた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
				達成された		達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	「達成度自己評価」及び「授業の質評価」の結果より、子どもの生活及び子どもの遊びに関する意欲・関心・技能はおおよそ達成。参考資料は若干配付したが、学生自身、意欲的に調べ課題研究に取り組んだ。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	個々の課題について学生たちは分担し、主体的に調べて発表し講義に臨んだ。ただ、「子どもの遊び」の課題に関しては小学校の生活科との関連が少し不足気味であり、教師の補足を要した。また、「幼・保・小の連携」の見学体験を設けたかったが、実現できずに終わってしまった。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	2年生、朝1限目の選択科目であったため、関心を持った学生が集まり、少人数でゼミ形式のようで授業は楽しかった。興味・関心を持って学びたいという意欲のある学生がさらに成長していくために、課題に対する吟味、研究方法など考えていきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	保育
氏名	財津 たか子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
子ども文化	1	前期	選択	いいえ	75

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
			○		○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	1年前期ということでもあり、様々な子ども文化財の見本を提示し、学生の前で実演した。まず、学生自身が子ども文化財の楽しさ、おもしろさを体験し、さらに、子どもへ与える意義を理解できるように心がけた。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
				達成された		達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	「達成度自己評価」及び「授業の質評価」の結果より、子ども文化に対する意欲・関心・技能はおおよそ達成。 毎回、授業時に資料配付し、又、次回の授業の予告、学習への準備も簡単なものであったため、より多くの知識を得ようと図書館等を利用する学生は少なかった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	毎回の授業を楽しんで受けている学生の様子やこの授業を通して、人前で話すことへの苦手意識が減り、自信がついた学生の姿を見ると、授業の進め方は良かったと思う。ただ、2クラス合同の授業であり、全学生に実践の機会を多く与えたかったため、子ども及び子ども文化に関するより深い説明の時間がとれなかったのは残念である。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	現在の学生は生活面での体験不足を感じる。そのためより具体的に物事の説明をしなければならず、学生自身が身体を使って学習していくことが求められる。特に「子ども文化」の科目では学生自身がまず、子ども文化財と出会って、見たり、作ったり、演じたりする体験が必要。そのためにもクラス単位の授業が望ましい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	保育
氏名	東彩子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
キャリア講座Ⅰ	1	前期	必修	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
				○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	入学してまもない学生が少人数のゼミ方式で、これから始まる2年間の短大での学びの動機づけ、保育者・社会人として必要な基本的スキルを身につけるにいたり、学生が主体的にリーダーシップが取れるよう、グループ作業における援助方法について工夫した。 グループワークの際は、教員がリーダーシップをとるのではなく、学生自らがリーダーを選出しチームワークを組んで進めて行けるよう促した。 高校生の時の勉強法とは違うゼミナール方式ならではの良さを知ってほしかったため、学生自らが考え行動することを大切にした。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
					達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業評価アンケートの結果より、専門分野で必要となる技術に関しては3.7、コミュニケーションや表現力に関しては4.2と高得点であったこと、また、授業の質評価の結果(授業中に自分の意見をまとめ話し合い発表する機会が作られていた4.3ポイント、学生の質問を受けつけそれに答える機会が作られていたか4.3ポイント)から、「相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝え、自己の役割を果たしつつ他者と協働して行事を成功に導くことができる」というシラバスにある理想的達成レベルに達し、教育目標は達成されたと言える。キャリア講座Ⅰは3回のシリーズの導入なので、今後、キャリア講座Ⅱの中で、Ⅰで学んだ知識をもとに、発展させていくような展開が必要とされる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 「キャリア講座」では、3期にわたって、少人数のゼミ方式で、保育者としての「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」を段階的に身につけることを目標としている。キャリア講座Ⅰは、行事の実践という課題をグループで取り組むことによって、人間関係形成能力、自己理解や自己管理能力、課題対応能力を育てる土台作りがされたと言える。 新入生研修でのレクリエーションの企画運営や、オープンキャンパスでの模擬授業の企画運営など、授業外での製作活動や練習などの取り組みを含め、メンバー一人ひとりが積極的に関わってチームワークを築きあげ、自己評価の達成率も3.9ポイントであったので、内容的に妥当であったと言える。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 他者との円滑なコミュニケーションを築きながら、自己の役割を見いだし、他者を認めつつ行事を成功させることができ、行動目標が達成されたといえることから、内容的に妥当であったと言える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	図書館の利用は6/9、データベース利用が5/9、インターネット使用が3/9であ ったが、今後は、全員が主体的に調査に参加できるように促したい。 授業の質の評価に関しては、学生が発表する機会4.3ポイント、質問を受付 答える機会4.3ポイントであった反面、学習量の評価の中の「課題以外に学 習に取り組んだか」が1名しかいなかった。自発的に調べて発表することが 多かった中で、1名しか記述がなかったのは、アンケートの質問の意味を理 解していなかったのではないかと推測される。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	行事という大きな目標設定があったため、ゼミ活動に欠かす事のできない コミュニケーション能力の構築と自己の役割を把握しつつ他者と協働する 力が身につけやすい設定となっていた。全体として達成度や内容の妥当性 などの問題はなかったが、個々人については課題が残っていると感じる。 個人面談などを積み重ね、一人ひとりのケアということを怠らず、少人数 生のゼミの良さを生かす工夫を行い、よりよいチームワークが構築でき るよう促していきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	保育
氏名	藤田 稔子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
キャリア講座Ⅰ（藤田）	1	前期	必修	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	今年度からゼミ制にし、よりきめ細やかな指導ができるように科目の授業体制を変えた。後期の「キャリア講座Ⅱ」まで同じメンバーで行うため、まずはゼミ生同士の関係性を構築するように努めた。また、演習そのものは、一人ひとり個別に対応できる状況のなったため、学生の個性に合わせた対応ができた。学生の意識としては、この科目は卒業必修科目であるため、履修せざるを得なく、ゼミ教員もゼミ仲間も決められているため選択の余地がないまま受講している。「させられている」という気持ちにならないよう、できる限り主体的に取り組めるよう、各回の演習を進めていった。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された				達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	この科目が掲げているDP4とDP5は、他の項目と比較し、「かなりそう思う」の占める割合が高かった。受講生9人全員が欠席したことがなく、どの演習も積極的かつ楽しみながら取り組んでいる姿が見られた。図書館での図書検索からレポート作成までの一連の研究課題の回では、短大に入学して間もない初学生であることから、個別に一緒に調べ、一緒に読み、一緒にレポートの文章を書く、という作業をおこなった。全員で意見を出し合って協働する内容と個別にしっかりと向き合っている内容と、メリハリをつけてゼミを進めることで、「授業の質評価」の項目で「かなりそう思う」とほぼすべての者が評価したことにつながっていると考えられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	「到達度自己評価」でDP4とDP5に「かなりそう思う」が傾いていることから、この科目のDPの位置づけは内容的に妥当であると判断できる。しかし、学生は、それ以外の要素も学びとっていることが結果として読み取れ、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけからは当然であるが、教員が思っている以上に総合的な演習の位置づけにあることが分かった。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	入学直後であるため、この科目が学生の負担にならないようできる限り「課外の課題」を求めないようにした。その結果、学生の自由記載では複数名が、授業の課題以外に学修していない理由として「必要がなかった」と回答している。しかし、学生の様子を見ている限りでは、気づかぬうちに図書館で図書検索をしていたり、スマホで検索したりしていた。「学修」という意識がない状況でただ興味関心があり調べずにはおられなかったからかと思う。この現象は、好ましいことではあるが、この科目の特性である初年次教育およびキャリア教育という視点から見ると、この学生の姿は、学生自身に好ましい学修者としての姿勢であることを意識化させるべきであった。今後は、ゼミ制であるため細やかに見ることができ指導ができるため、「意識化」させることを積極的にしていきたいと思っている。授業の進め方に関しては、シラバスに則りつつも、個と集団の良さを最大限活用し展開してきた。「授業の質評価」が平均値4.8～5.0であったことの裏付けになると考えている。これが出来得たのは、少人数で展開できるゼミ制に変更したからであると考えている。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	「学習量の評価」以外は、思っていたよりも評価が高く、学生達が十分学びを得てくれたと評価している。特に「図書館利用」は、「図書館の図書・雑誌を利用した」が100%であることは、シラバスに記している演習内容からして当たり前であるが、学術データベースを利用した学生が9名中2名もいたことに驚いた。何気なく学生の横で教員が文献検索をしていたのを見て、自分で検索をしたと考えられる。今までは、初学生であるから「この程度で」と思っていたところがある。今回の授業評価や日々の学生とのやり取りの中で、ゼミであるため教員と学生の距離が近く、学生はよく見て学んでいることが分かった。今後は、学生一人ひとりの可能性を十分に広げていけるよう枠にはめ込まず進めていきたいと思う。
------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	保育
氏名	戸田由美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
キャリア講座Ⅲ	2	前期	必修	はい	

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	所謂ゼミは、学生自身の望むところであるので、意欲をもって臨んでいるので、スタートラインからして好調である。ただ、私のゼミはファンタジ文学一ゼミであるので、保育におけるファンタジー性の解明に力を注いだ。それは子どもの精神世界に関連しているのでそのあたりを慎重に究明した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された	達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	行動目標は、ほとんど達成されたといっても過言ではない。ゼミ生一同、ファンタジー漫画の制作を完成させた。皆の結集されたアイデアは斬新な作品になったと思う。評価されうるものであると思う。オープンキャンパスに展示をし、学習到達度としては90%である。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容妥当性 なかのところまで伸びていることに加えて、自主的に取り組んでいるので、内容的に妥当性があると考える。 ②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 意、受講動機から鑑みても、それぞれ到達点が高い点に於いて、内容的に妥当性があると考える。	学生は一人ひとり学習到達度もなか 学修への熱
--	--	--------------------------------------

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	講義の進め方、或いは、テーマに関しては学生の意志をとおして、年々歳歳異なるので、それがそのまま、改善策にもなり得るものと解釈している。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	ファンタジーというのは、視点を変えれば幾通りにも表現することができる柔軟性があるので達成したのだと考える。したがって今後、ゼミを持つ場合にはこのような調子で進めてゆきたいと思う。
-------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	保育
氏名	東彩子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
キャリア講座Ⅲ	2	前期	必修	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
				○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	必修科目である、全キャリア講座が大切にしている、「保育者としての職業意識や態度、子どもを総合的に理解しそれに基づく援助を行っていく専門的知識・技能、保護者や地域と連携することのできる調整力」に基づき、「キャリア講座Ⅲ」では、自己の研究課題に合致した指導教員のもと、実践的に研究することを目的としているため、学生が主体的に研究課題を設定し、学生自らが企画・実践できるよう、北九州市との共催でおこなう子育て支援の機会を設けた。また、他のゼミと協力して行う設定としたため、ゼミ外の学生や市の職員との協力体制の中で、保護者や地域と連携する調整力などを養うねらいを定めた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
					達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業評価アンケートの結果より、「専門分野で必要となる技術を身につけることができた」は4.4ポイント、「コミュニケーションや表現力を高めることができた」は4.5ポイントであった。トータルの成績の平均値は約85%以上。トータルの成績からみても、達成の理想レベルである「研究課題に対し、ゼミ教員と相談しながら主体的に進めることができ、その成果を他者にわかりやすく表現することができる」という内容に関しては、達成されたと言える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は社会人基礎力を養う「必修」科目である。学外の社会の現場を発表の場として設定し、北九州市との共催として実施したことは、学生たちが専門分野の知識を生かし、社会において実践するためには妥当だったと言える。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 到達度自己評価の全てにおいて4.1-4.5ポイントであったことも、本科目の行動目標①②③すべてにおいて、学生自らが到達できたことの現れであり、内容的に妥当であったと言える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価においては、3.8-4.5ポイントであり、大きな問題はみられないが、課題としては、学習量において、特に活動の記録ができていなかったことが顕著にあげられる。ただ、企画・実施するだけではなく、今後の参考ともなる記録の取り方について、今後検討する必要がある。また、情報利用や図書館利用についても、最新の情報に触れられるように促す工夫を検討したい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	社会人基礎力を養う、必須科目である「キャリア講座Ⅲ」の位置づけからも、トータルとして、学生の達成度が高かったことは今後につなげていきたいが、個人レベルでは、まだ細かい指導を必要としている学生もいる。より極めの細かい指導を目指し、一人ひとりがより積極的に関わり、一部の人の負担を負うことができるようなゼミ作り、チームワーク作りを目指したい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	保育
氏名	藤田 稔子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
キャリア講座Ⅲ(藤田)	2	前期	必修	いいえ	3

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	×	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	専門が保育ではないため、保育士・幼稚園教諭を目指す学生にとっては、関心の薄い分野であるゼミだと思っている。そのため、ゼミでは、学生の興味関心のある領域で教員の専門性を活かせることは最大限指導していきたい、また、教員の不足している部分は、ゼミ生と共に研鑽していきたいと思っている。今年度は、病児保育に興味関心を持ってくれたゼミ生であったため、以前「小児保健実習」でお世話になった実習病院に交渉して小児病棟での楽しみ会を開催することができた。実際に感じ、見、実践することで学ぶことが重要であると考えているため、学生のニーズに合った機会を提供できるように調整することに努めた。学生の「履修カルテ」の記載に、体験したいと思っていたことができた、という内容が記載されており、開講してからの調整で困難な状況であったが、学生のニーズに応えられてことはよかったと思っている。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された				やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	ゼミでおこなった活動は、「小児病棟のお楽しみ会」、「生き生きチャレンジキッズ」、「だいすき にっぽん」、「井堀の森の小さな音楽会」、大学祭の「子どものあそびワクワクワールド」の準備、等半期で複数もの行事を掛け持った。そのため、ゼミ時間外で製作等準備せざるを得なかったが、全て期日までに完成させ、さらに質的にも高いものであった。しかし、行事が多く、一つひとつをじっくりと振り返ることができなかったことは、問題として挙げられる。その結果が、教員の学生に対する評価と、学生自身の自己評価の乖離であるとする。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	「キャリア講座Ⅲ」としてDPを設定しているが、ゼミの特性によっては、設定しているDPが妥当と言えるかどうか不明瞭なところがあると思った。今回の授業評価における「到達度自己評価」の結果で、「意欲関心(DP3)」が高い評価であった。受講生の自己評価は低いが、様々な行事を体験することで、技術表現も磨かれ、実際に子どもや保護者、関連機関の専門職、地域の人々等様々な方々と対峙することで、学生として、そして将来の保育者として成長した姿があった。このことから、DPIにおける本科目の内容的妥当性はあったと評価している。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	ゼミ活動であるため、授業評価の「学習量の評価」「情報利用」は参考しがたいものがある。また、「図書館利用」についても、ゼミで必要なものはできる限り購入し、研究室で自由に閲覧・活用できるようにしているため、研究室の雑誌・資料も含めると、十分活用していた。ゼミの進め方としては、今年度行事が多かったため、そのための時間に追われた感があった。そのため、「やりっぱなし」という印象を感じている。次年度からは、通年になるため、もう少し余裕を持って、「やりっぱなし」ではなく、学生自身が自分の成長を感じられるように「振り返る」時間をその都度設けていきたいと思っている。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	学生達の自己評価と教員の評価に乖離があるため、達成状況の総括的評価が難しい。しかし、学生達の「履修カルテ」やゼミでの言動からは、達成感を十分感じていると思っている。受講生がゼミを選ぶときに「このゼミに入ったら、自分から動けるようになりますか？」と聞いてきた。このゼミが「実践」を主として行事が多いことで学生が望んでいる力が養えると思ってゼミを選んだと思われる。受講生のニーズに応えられているか、そして、実感できているか、と考えると不十分であると思っている。今後は、受講生自身が実感できるように工夫する必要があると考えている。
------------------------------	---